

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業務

政策名	物流・産業	責任者	港営部 海務課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	連絡先	052-654-7883
事務事業名	水域施設・係留施設の管理・運営	連携課	事業推進課、維持管理担当、港湾工事事務所、工事課、港湾管理事務所
目的	対象(誰・何を)	岸壁の防舷材	事業期間 昭和26年度～継続
	意図(どういう状態にしたいか)	維持管理(設置、交換、補修)することにより、船舶が安全に係留できるようにします。	
概要	名古屋港の公共岸壁における防舷材について調査・点検(年次)を行い、経年劣化又は利用者による損傷・不良箇所を補修し又は補修させます。		根拠法令等 港湾法 港湾施設条例
活動内容	弥富ふ頭6号岸壁及び7号岸壁において防舷材の割れ(裂け)による船舶の接岸吸収エネルギーの減少から、今年度、6号(1基)、7号岸壁(3基)に計4基の防舷材を設置します。		実施義務 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
			関連シート

2 DO(実施)

コスト	単位	26年度	27年度	28年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	96,998	23,046	12,310	44,118	※費用の増減については各年度予算(確保)額による
人件費	千円	4,761	4,898	5,084	4,914	
合計	千円	101,759	27,944	17,394	49,032	

3 CHECK(検証)

指標名	26年度	27年度	28年度	中間目標	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
公共全岸壁数における修復が必要な岸壁数(防舷材修復)に係る岸壁の健全率(%) (単年度管理型)	目標	100	100	100	$\left[ 1 - \frac{\text{修復が必要と判断した岸壁数}}{\text{全岸壁数(公共)}} \right] \times 100$ ※特A、指摘(国有:実地検査)及び増設等(当該年度施工)の防舷材を対象とする	港湾施設実地監査、利用者要望
	実績	80.0	80.0	81.3		
事業進捗状況(28年度)		目標値を上回る <input type="radio"/> 目標値をやや下回る		目標値どおり <input type="radio"/> 目標値を下回る	(参考)	
目標					$\left[ 1 - \frac{15}{80} \right] \times 100$	
実績						
事業進捗状況(28年度)						
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	平成28年度においては、目標値をやや下回りましたが、毎年度の防舷材調査から船舶の接岸に際し、支障ある防舷材について順次補修を行い、岸壁としての健全率を上げていきます。					
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明				
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/>	港湾管理者は港湾施設を良好な状態に維持する必要があり、利用者からも良好な維持管理が求められています。			
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>				
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	<input type="radio"/>	多くの港湾施設が、その経年劣化から老朽化してきている状況の中、予算面からも目標の達成までは困難な状況ですが、維持管理計画に基づく港湾施設の機能維持は今後も必要な事業です。			
	期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	実績値は目標値をやや下回るという結果となりましたが、防舷材については、発生する船舶事故による損傷、また、経年的な劣化の進行もあることから、8割以上の健全化率の確保は、概ね、船舶を安全に係留できる状態であり、その成果は得られているものと考えております。			
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	補修に際しては、利用頻度や損傷具合により、優先順位を付けるなど、必要最低限の費用で実施し、最大限の効果を目指します。損傷に係る原因者が判明している場合は、原因者に負担を求めています。			

4 ACTION(取組)

課題	29年度以降の取組
補修が必要な防舷材は年々増加しており、計画的に維持補修を行っていく必要があります。	港湾施設に維持管理に係る港湾施設等アセットマネジメント推進計画に基づき、施設の利用頻度や損傷具合により、優先順位を付けながら、維持管理を行っていきます。